

公益財団法人 野村マネジメント・スクール

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

研究期間:2018/05/15 ~ 2019/05/14 を 2018/05/15 ~ 2020/03/31 に変更

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):開沼泰隆・東京都立大学・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

Yacob Khojasteh・上智大学国際教養学部・准教授

降旗徹馬・高千穂大学経営学部・教授

須山 憲之・文化学園大学服装学部・教授

研究課題名:グローバル・サプライ・チェーン・ネットワークの設計/再設計に関する研究

研究期間: 2018 年 5 月 15 日 ~ 2020 年 3 月 31 日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、グローバル・サプライ・チェーン・ネットワークの設計を、「生産拠点の配置/再配置」、「移転価格税制」という 2 つの観点から多目的に検討し、最適なグローバル・サプライ・チェーン・ネットワーク設計を行ったものである。本研究で得られた成果は以下の通りである。

課題 1:移転価格税制のモデル化

移転価格税制取入れたグローバル・サプライ・チェーン・の多期間モデルを構築し、シミュレーションによって検討を行った。税引後利益を最大化する移転価格と輸送量を決定する方法を確立することができた。

課題 2:生産拠点の配置/再配置

生産拠点の海外移転先(offshoring)の立地地点決定だけではなく、一度海外進出した後に近隣国へ移転(nearshoring)する場合、海外進出してから自国へ国内回帰(reshoring)する 3 通りのオプションを考慮し、シナリオ分析による配置/再配置を検討した。オフショアリングでは移転価格との組み合わせによって最大の利益となる為替レートが変わる。そのため、為替レートの動向に応じて適切な移転価格を設定することで、利益を大きくできる。一方、リショアリングでは、すべての移転価格において円安が最も利益が大きい。この結果は、円安傾向であればリショアリングを行うべきであるという現在の傾向に合致している。さらに、ニアショアリングでは、すべての移転価格において円高が最も期待利益が大きいことが分かった。

口頭発表:Ueda,T., Suyama, N., Furuhashi, T., Khojasteh, Y., Kainuma,Y., Optimal Allocation of Global Supply Chain Entities, APIEMS Conference, 2018

開沼,グローバル・サプライ・チェーン・ネットワーク設計/再設計,日本情報経営学会,第79回全国大会,2019

論文:Kainuma, Y., Suyama, N., Furuhashi, T., Khojasteh, Y., Investigation of global supply chain network redesign, *Procedia Manufacturing*, Vol. 39, pp.1552-1558, 2019